

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201209		
法人名	有限会社コーブンシャ		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	三重県四日市市笹川2丁目175番地		
自己評価作成日	令和4年12月26日	評価結果市町提出日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470201209-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470201209-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社		
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1		
訪問調査日	令和5年3月2日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた自宅での生活により近い環境で過ごせるよう、敷地内の畑や庭を利用し、野菜や花の手入れや収穫を全員で行うなど、皆さんが参加できる作業を生活の中に取り入れています。

また近隣との交流や自治会の地域行事に参加しています。(近年はコロナウイルス感染症防止のため中止となっています)

「ゆっくり・いっしょに・たのしく」と語り合える、笑いの絶えない「ほのぼの家」の家族になれるよう心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市の古くからある団地の中にあり、創業者の住居をリノベーションしグループホームとして利用している。大通りからは1本入っている為、静かで緑も多く、懐かしい感じのするホームである。玄関には理念が掲げられてあり利用者で「ゆっくり・一緒に・楽しく」暮らせるよう職員が努力している。今はコロナ禍の為中止しているが、利用者や地域住民参加の認知症カフェを開催し、地域交流を図っている。食事には特に気を配っており、陶器の器に季節の食材を使い、恵方巻や雛祭りのちらし寿司など、利用者と職員が一緒に作り、食べることを楽しんでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、利用者の可能性を見出し、意欲を導き出すよう心掛けており、過介護をしないよう意識している。	理念の「ゆっくり、一緒に、楽しく」を念頭に、職員全員が、出来ない事を望まず、出来る事を楽しく、時間に縛られることなく、その日の体調、気分に合わせて支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や民生委員の方に参加いただき、運営推進会議を2カ月に1回行っていたが、コロナ禍のため文書報告を行い、ご意見・ご要望を伺っている。自治会にも加入している。	自治会に入っているが、コロナ禍の為に利用者や地域を繋ぐ行事がなく交流はできていない。今は回覧板で地域の情報を得ている。自治会長や地域の民生委員に運営推進会議の報告を行い、返信用封筒にて意見等を貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェを通じて地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため2カ月に1回文書報告を行い、ご意見ご要望を伺って改善に取り組んでいる。身体拘束の情報交換。	今は参加型の会議は中止しているが、2ヶ月に1度運営推進会議の資料を、家族、行政、自治会長、介護サービス相談員や民生委員に送付し、返信欄を設け、各方面からの意見を運営に反映させるべく取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症カフェを開催し、参加してもらい協力していく。月1回程度訪問し営業している。	今は認知症カフェは中止している。今年は家族や市役所職員に協力してもらい、四日市市開催の「RUN伴」に全職員参加し、施設近くの笹川通りで、タスキをつなぐ事ができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束や心理的な拘束について、勉強会をおこなって話し合っている。日中は玄関の施錠を出来るだけしないようにしている。	毎月のミーティングで身体拘束の適正化委員会を開催し勉強会をしている。日中は、門扉は施錠しているが、玄関は施錠せず庭には自由に出る事ができる。帰宅願望のある利用者も職員と外に出る事で安心して帰って来ていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉掛けの一つ一つに常に注意しており、疑問に思ったことは勉強会で話し合い、より良い解決策を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	配布されたパンフレットなどで職員間で学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	状況に応じ、適切に敏速丁寧に対応している。 納得いただくまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議の議題を作り、話し合いをしている。文書報告を行い、都度ご意見・ご要望を伺っている。	毎月のほのぼの通信、隔月の運営推進会議の結果報告に返信欄を設けたり、家族来訪時や電話で意見や要望を聞き、申し送りノートで職員間で共有し、その後の運営や支援に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングには、社長や統括に参加してもらい、情報や職員の意見を交換し、反映させている。	社長や統括の参加する毎月のミーティング時に、プロジェクトチームや対策委員会から出た現状の問題点や職員の意見を聞き、運営に反映させる取組を行っている。また、職員には個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足が長く続いており、時には他の施設から助けに入ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば研修に参加している。 連携をたいせつに、話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人対個人の関係と環境を作り、傾聴や対話を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に対話と提案を心掛けている。 時には電話をかけ様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを行い、情報の共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や援助をするだけでなく、本人の能力に応じた家事などに参加してもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	双方との会話と意見交換をする場を提供していく。 RUN伴に家族様と利用者様で参加いただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との連絡を定期的に行っている。コロナウイルスが落ち着いた時には、訪問していただいたり、手紙などのやり取りをしている。	コロナ禍で面会を制限していた為、家族や馴染みの人との面会は出来ていないが、毎月のほのぼの通信に文章を添えて送り、一番の馴染みである家族から利用者の記憶が薄れないよう支援している。今年のRUN伴参加時には、協力してくれた家族と会うことが出来た利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を把握し、1人ひとりが孤立せずに関わり合い、支えあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で培ったその人の知識と情報を家族と共有していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察や対話などから希望や意向を受け取ったときには、ミーティングや申し送り等で対応策を検討している。	意思疎通ができる・できないに係わらず、一人ひとりの状況に合わせて、誤魔化さないで真摯に向き合うことで、各人の意向を引き出し、希望に沿うように努めている。職員間で連絡を密に行い、ここで安心して暮らして貰えるような対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の資料、入所時より関わっている職員より情報を得ている。 ご本人様との会話により記憶を導き出させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌や申し送りノートを活用している。 職員それぞれで感じた事があればミーティングで話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見交換しやすい環境と即実践していけるアイデアを活かした計画を立てている。	長期は1年、短期は6ヶ月に一度、新しい入所者は3ヶ月で介護計画を見直している。本人からや電話で聞いた家族の要望や意見を尊重しつつ、職員間でアイデアを出し合って本人の状況に即した実践可能な介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を一つにまとめ、集約して計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のレベルアップの講習と教育に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の相談員の訪問。 地域との繋がり行事に参加していたがコロナウイルスの影響により実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に月1回の往診をお願いしている。 医師と薬剤師と職員の情報の共有化に努めている。	月1度の協力医の往診があり、薬剤師には薬の管理をして貰い、職員がWチェックをしている。協力医以外の通院は、原則家族同行受診だが、対応できない場合は職員が通院介助し家族に結果を報告している。	今の協力医は24時間対応ではない為、夜間緊急時の対応策をマニュアル化する事が望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人の記録ノートを見せ、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会をおこなっている。 担当看護師や家族様との状況確認や相談などの時間を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での対応範囲をご理解いただき、家族様の意向にそえるよう、出来る限り協力させていただく。	入所時に、看取りは行っていない旨を家族に説明し、了解を得ている。状態の変化時に、再度家族と話し合い、本人の状況に合った施設を紹介している。看護師のいる系列の施設に移った利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受け、学習の機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。 業務継続計画(BCP)の策定義務化に向けて、導入の検討を行っている。	消防署立会いの元、年2回の避難訓練を実施している。夜間想定で行い、門扉に集合している。 BCP(業務継続計画)の策定に向けて講習会に参加している。3日分の食料、水、衛生用品の備蓄があり、毎回の防災訓練時に日付の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の想いを大切に対応していく。	個人の人格を尊重した言葉かけをするよう努めている。特に排便、排尿時の声掛けには、プライドを傷つけないように気を付けている。レクを行う場合も、利用者のプライドに配慮し、状況に合わせた題材を選び、マンツーマンで行う場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴や対話を通じて支援していけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の問いかけに素直な気持ちで耳を傾けていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを実現できるように支援している。 2か月に1度はプロの理美容室に来てもらい、本人の意見を聞き、ヘアカットなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限りの手作りの料理の提供を心掛けている。	季節を感じて貰えるようホームの畑で収穫した季節の食材や旬の物を使い、職員が工夫を凝らして手作りしている。誕生日のケーキ、流しそうめん、恵方巻等季節の行事時には利用者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量には気を付け、状態に合った支援に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。 利用者様にあったケアを、で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をおおむね決めて、排泄を促している。	個々の排泄チェック表を活用し、利用者の自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けている。現在は、全員がトイレで排泄できている為、自立の継続に向けて支援をしている。便秘の利用者には協力医に相談して適切に下剤を使い、失敗の無いように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動と体操で体調を整えている。施設内で野菜を作り、新鮮な野菜を調理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め、本人の意思にそった入浴介助を心掛けている。	基本週3回の入浴は、一人ずつゆっくり時間を取って希望に沿うように個別対応で支援している。今は、脱衣室が狭い為、廊下にカーテンを設置して対応しているが、今年風呂場と脱衣室をリホーム予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔保持、入眠時の声掛けに心をくばる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、決まった時間の服用と症状の変化の確認・報告に努めている。薬剤師の先生とは薬を届けていただく時以外にも、電話にて相談・指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活面での役割を受け持ってもらい喜びをあげてもらおう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を肌で感じてもらえるよう散歩に出たり、車で近隣へミニドライブをして、気分転換を図ったりしている。	コロナ禍だが、季節ごとに梅や桜の鑑賞、紅葉狩り等に出かけている。また、利用者が喜ぶ料理を慕の内弁当風にして屋外で楽しめるような工夫もしている。今年はRUN伴にも参加して、500mの距離を不安なく歩行が出来るように、施設内の廊下や庭、体操などで下肢筋力が低下しないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設でさせていただいていますが、行事や外出時にお金を持って購入してもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話の対応、取次を行っている。思い込みで不穏になられた時は、家族様の声を聞いていただく時もある。家族様へ手紙やはがきを書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を目で見ても肌で感じられる居室作りを行っている。	食堂と居間は別になっており、個々のペースに合わせて食べる事が出来る。居間の南側の大きな窓からは広い庭が眺められ、花壇の花から季節が感じられる。トイレは3ヶ所あり、利用し易いようにカーテンが掛けてあるが、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の想いを尊重できるようにリビングでの過ごし方や、席の場所は固定しない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になじみのなじみの物を持ってきていただき、居室においている。	一人ひとりの使い慣れた筆筒や物、思い出の品を飾り、利用者の想いや家庭的な環境に近づける様努めている。自分で書いた絵や書道、パッチワーク等を壁に飾って眺めては楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・スロープ等を設置し、自立に向けた介護をしている。		